



FCパルセイロ毛呂山レディース

〜めざせ! なでしこジャパン!!〜



FCパルセイロ毛呂山レディースは、1980年設立の県内で最も古い女子サッカーチームです。来年3月に32回目を迎える「もろやま少女サッカー大会」は県内で最も長く続いています。最近の実績としては、関東ガールズエイトに出場し、残念ながら関東大会出場はなりません。現在の団員は27人。毛呂山町だけでなく、周辺地域からも入団しています。団では、サッカーの基礎から学び、サッカーを楽しむことができ、よう指導しています。みんなが試合に出られるよう心がけ、失敗を恐れず、チャレンジする気持ちを大切にしています。そのようななかから、チームプレーの大切さ、仲間の大切さを知ってほしいと思っています。



低学年から高学年まで一緒に練習をすること、みんな仲良く、チームメイトを気遣つ心が自然と身についていきます。

また、助け合う心がサッカーのプレーにも良い影響を与えています。チームワークよく戦えた試合は、勝敗に関係なく、心地よい達成感をもたらせてくれます。



チームワークをコンセプトに、優しい気持ちが感謝の気持ちを育て、それが指導者や家族はもちろん、卒団生への尊敬の心につながっています。長い歴史のなかで生まれたチームワークは、もろレディース(団員の通称)たちの自慢です。

練習日 土曜日・日曜日・祝日午後

1時〜4時

場所 泉野小学校グラウンド

会費 年額6000円(父母会費

1万円)

問合せ FCパルセイロ毛呂山レ

ディース ☎295-0234本

田、[http://www.ac.auone-](http://www.ac.auone-net.jp/~fcm11980/)

net.jp/~fcm11980/

佐々木文山書八幡宮扁額
文化財シリーズ 224

新規指定文化財の紹介⑧

〜佐々木文山書八幡宮扁額〜

五体いずれにも優れ、兄の佐々木玄龍とともに書家として名を馳せました。

社寺に掲げられる扁額の字については、伊達政宗の霊を祀る瑞鳳殿(仙台市・現在の扁額は複製)や入谷鬼子母神(東京都台東区)のほか各地に作例があり、埼玉県内でも深谷市や加須市(旧騎西町)に残されています。また、扁額だけでなく武蔵一ノ宮冰川神社(さいたま市大宮区)一の鳥居脇の社号碑も文山の筆によるものです。

裏面には「享保九甲辰年(1772)六月吉日 如意村 嶋田太良左衛門」と刻まれています。

当代きつての書家・佐々木文山がどのような経緯で筆を執つたのかは判りませんが、この扁額は、古文書を除くと旧八幡宮の合祀改称以前の唯一といつてよい資料です。また、佐々木文山が世に残した数ある扁額の中でも特に優美であり、平成24年3月21日に町の指定文化財となりました。



佐々木文山書八幡宮扁額

出雲伊波比神社本殿(国指定重要文化財)と並び、臥龍山に鎮座する天神地祇社は、大正5年(1916)の摂社末社の合祀以前、八幡宮(八幡社)と呼ばれ地域の信仰を集めていました。毎年3月に行われる出雲伊波比神社の春の流鏝馬は、元来八幡宮に奉納されていた流鏝馬で、毛呂の流鏝馬の起源とも言われています。

「八幡宮」と隷書体で彫り出された扁額は、「佐文山書」の文字と「墨華堂」の落款が刻まれています。「佐文山」とは、江戸時代中期を代表する書の大家・佐々木文山で、墨華堂と号しました。字は淵龍、別号を臥龍とも言います。

佐々木文山は、万治2年(1659)江戸に生まれ、讃岐国(今の香川県)高松藩に仕えました。

幼少のころから書をよく行い、篆書、隸書、真書、行書、草書の